

公開講演会 最新化学談話シリーズ

令和元年度 第5回談話会

アミノキノリン誘導体の発光特性

唐澤 悟 教授

(昭和薬科大学薬学部)

主催 九州大学理学部化学教室談話会

日時：令和元年 12月13日（金）午後13時30分より

場所：九州大学理学部化学科 W1-B-315 講義室

(伊都キャンパス ウエスト1号館3階315号室)

内容：ドナーアクセプター型蛍光剤の一種であるアミノキノリン誘導体は、溶液や固体状態で中程度に発光する分子である。置換基を導入した誘導体から、多くの結晶多形が生じ、加熱やグライディングなど様々な刺激を加えることによって、相転移現象が起こり、発光色が変化する。また二つのキノリン環を有する誘導体では、溶液中光刺激によって、発光変化を伴った光環化反応も生じる。このような外部刺激に対して鋭く応答するアミノキノリン誘導体の刺激前後での構造や物性変化を明らかにしてきた。本講演では、基礎的な構造物性変化だけでなく、温度に応答してがん集積した応用例についても発表する。

(注)この講演は大学院集中講義の一部です。

連絡先：九州大学大学院理学研究院化学部門

(世話人) 佐藤 治 : TEL (092)802-6204

(事務局) 化学部門等事務室 : TEL (092)802-4125